

第3章 将来都市像とまちづくりの目標

3 - 1 将来都市像

狛江市のまちづくりには、住宅都市としての環境保全、道路の整備による交通機能の向上や安全性の確保などさまざまな課題があります。しかし、農地や樹林地をはじめとする「緑」と、多摩川や野川などの「水」といったまちづくりに活かしていく資源もあります。将来にわたってこれらの資源を市民、事業者、行政などの協働の取組みによって大切に守り育てていくことが、目指すべき共通の目標です。

狛江市第3次基本構想において、市の将来都市像を「私たちがつくる水と緑のまち」と掲げ、その実現を目指しているところです。この将来都市像には、市民がまちづくりの主体となり、市民、事業者、行政などがお互いに連携、協働によりまちづくりを進めていくこと、また、狛江市のシンボルである多摩川や野川などの河川、樹林地や屋敷林などの緑を守り、自然環境と快適な都市環境との両立を図ることといった思いが込められています。

都市計画マスタープランにおいても、この将来都市像を、市民、事業者、行政全体にわたって共有し得るものとし、その実現に向けた各種の施策を展開することにより、いきいきと快適に暮らすことのできるまちを目指します。

私たちがつくる水と緑のまち



3 - 2 まちづくりの目標

まちづくりに関わる課題を解決し、将来都市像、次のページで位置づける将来都市構造を実現するためのまちづくりの目標を以下の5点とします。横断的な視点に立って各種の施策を実施して、これらの達成を目指します。

水と緑、農を活かした持続可能な狛江をつくります。

誰もが歩きやすく、快適に暮らせる狛江をつくります。

災害に強く、安心・安全に暮らせる狛江をつくります。

地域資源の活用により個性的な狛江の文化を育てます。

地域・市民自らが築き、きずなを大切にする狛江をつくります。

3 - 3 将来都市構造

狛江市の将来都市像を空間構成の観点から概念的に示す将来都市構造を「都市拠点」と「都市ネットワーク」から形成します。この将来都市構造を実現する観点から、第4章以降に示すさまざまなまちづくりに関わる施策を進めます。

(1) 都市拠点

狛江市内の各地域の特性を活かして、面的(一定の広がりを持った地域)又は点的(スポット的な箇所)な都市の構成要素としての「都市拠点」を定義し、次の3種類から構成します。

中心拠点

狛江駅の周辺を、商業などの中心地、そして通勤・通学者など多くの人々が集まる交通の結節点として、「中心拠点」に位置づけます。

北口周辺では再開発事業が完了しているほか、南口周辺についても地域に密着した商店街が形成されるなど、まちの中心としての機能を果たしています。

北口周辺において、文化機能や交流機能など、市民の「生活の質」を高めるための都市機能の強化を図るとともに、南口周辺についても、地域に密着した商店街の維持、市の中心部にふさわしい機能の強化・導入を検討・推進していきます。

地域交流拠点

和泉多摩川駅と喜多見駅の周辺などの地域を、「地域交流拠点」に位置づけます。

通勤・通学者などが利用する交通の結節点の一翼を担っているほか、中小規模の商業施設への買い物客なども見られる、地域の中心地となっています。

地域のニーズにあった都市機能の強化・導入を図ります。

水と緑の中心拠点

西河原公園や西河原自然公園、また、都市計画緑地として指定している和泉多摩川緑地を含む一帯を「水と緑の中心拠点」に位置づけます。

広域的な防災やレクリエーションなどの多目的な機能を果たす狛江市の大規模拠点の創出を目指します。

(2) 都市ネットワーク

「都市拠点」と住宅地などを相互に結ぶ、以下の2種類の「都市ネットワーク」を形成します。

生活のネットワーク

「中心拠点」と狛江市内の各都市拠点、住宅地などの各地域をつなぎ、また、狛江市と周辺都市をつなぐ、「生活のネットワーク」を構成します。市内を「毛細血管」のようにきめ細かく網目状に結ぶ、安全・快適で歩きたくなるようなみちづくりを進めることにより、ネットワーク型のまちを形成します。

狛江通り(調3・4・18)、水道道路(調3・4・2)、松原通り(調3・4・17)、公園通りから水道道路との交差点までの調3・4・16などの幹線道路については、適切な維持・管理や沿道の耐震化により、自動車交通の円滑な処理機能の強化を図ります。

水と緑のネットワーク

狛江市の南側境を流れる多摩川と北側境を流れる野川を、狛江市における貴重な水辺空間として「水のネットワーク」と位置づけ、潤いを感じられる川沿いは、散策などが楽しめる歩行者動線としての機能の維持・向上を図ります。

特に多摩川の河川敷については、多摩川流域での連携も踏まえながら、レクリエーションや防災の機能をもたせることを重視します。

また、野川緑地公園と岩戸川緑地公園、小田急線沿いに整備されたふれあい側道を「緑のネットワーク」と位置づけ、緑が豊富で快適な歩行空間として、また延焼遮断などの防災機能を持った空間としての機能の維持・向上を図ります。

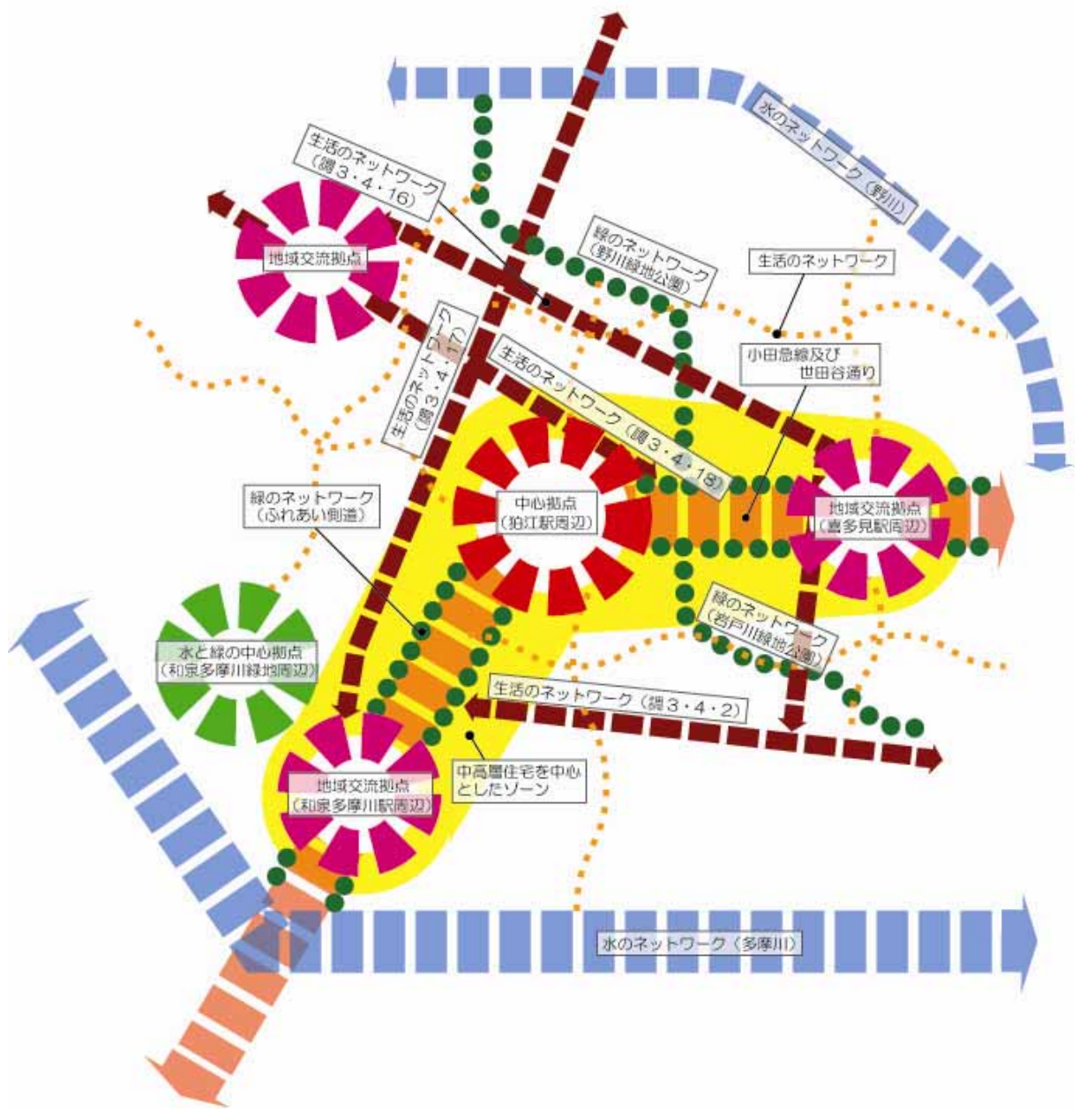


図 将来都市構造